

君津市を流れる宮下川で、地元住民が植えたニッコウキスゲが見頃を迎えている。兩岸約1.2キロにわたり、黄色の美しい花を咲かせている。地元住民ら約30人でつくる市民団体「宮下緑地をきれいにする会」が、1999年から一昨年末までに約1370株を植栽

面ののどかな風景を楽しみながら散歩できる環境を整えている。同会の案納龍男代表(73)は「今年は少し開花が遅く、全体としてはまだ4分咲きぐらいだが、場所によっては満開になっている。今後は川のそばにアヤメも植えたい」と話した。



く、子育て環境の充実が大事。これから傘を活用する日も多い。感謝したい」と笑顔で受け取った。

# オオタカを市の鳥に

山流

## 議員提案に市「検討したい」

流山市議会で20日、オオタカを「市の鳥」に定めるよう求める一般質問があったのを受け、市が「前向

きに検討したい」と答弁した。今後、制定に向け庁内議論を始める方針。

同市は市の木を「ツゲ」、市の花を「ツツジ」としているが、市の鳥は未制定になっている。

一般質問で取り上げたのは野田宏規議員。緑地保全についての議論の中、「今や市の象徴となっているオオタカを市の鳥に制定してはどうか」と提案した。答弁した田中佳二環境部

長は、同市ではオオタカの繁殖が本県で初めて確認され、駅名や学校名にもなって発展に貢献しているとして、「オオタカがまちづくりに重要なとの認識がある。制定に前向きに検討したい」と応じた。

志村誠彦上下水道事業管理理者も「制定されたならば、マンホールふたにオオタカを描くなど市民への周知を図りたい」と具体案を示した。

取材に対し、野田議員は「環境保護の観点からもオオタカが市の鳥になって、市民の理解も深まれば」と期待を示した。

時代の房総の漁村が発祥地とされています。万祝は現在では、千葉県伝統的工芸品に指定されています。

江戸時代、イワシ漁は豊凶を繰り返します。しかし、干鰯や粕(しめかす)釜でゆでて魚油を取った残り粕は、綿や菜種油などの商品作物栽培に重要なものでした。

明治に入ると、揚繰網(あぐりあみ)が漁法の主流となりましたが、イワシが取れる量が激減し、九十九里浜のイワシ漁は衰退してしまいました。

今日、地曳網は観光地曳として、九十九里浜の各地で行われています。特に夏場は、観光客が

# 「汗と知恵出し合う」

船橋市長 初登庁 2期目へ決意新た

18日の船橋市長選で再選した松戸徹市長が20日、初登庁した。松戸市長は市職員を前に「日本一の船橋市をつくるため、皆さんと一緒に汗を流し知恵を出し合いたい」と、2期目への決意を表明した。

らに迎えられ市役所に到着した松戸市長は、女性職員らから花束を受けた。写真。拍手の中で、花束を高く掲げ庁舎に入った。市選挙管理委員会から当選証書を受け取り、11階の大会議室で約250人の職員を前に「80周年の節目の